

- 1 若者の地元定着
- 2 地域公共交通の充実・確保、高速交通ネットワークの形成促進と置賜地域経済の活性化
- 3 新型コロナの対応状況と新型コロナ収束後を見据えた広域観光の推進
- 4 最近の話題

1 若者の地元定着①

《現状》

- ・就職を契機に多くの若者が県外へ流出。令和3年3月卒業者では、就職者(大学、短大、高校)のうち、62.2%(R2 63.7%)が県外に就職
- ・地域に住む若者が、地域の魅力に気づいていない

令和3年3月卒	県内割合	県外割合
管内高校	74.0%	26.0%
管内大学	15.9%	84.1%
合計	37.8%	62.2%

《課題》

- ・若者の地元への定着を促し、人材の確保を図る必要がある
- ・若者の視点で地域を見つめ直し、置賜の魅力を発掘・磨き上げ、広く地域の内外に発信していく取組が必要

《取組》

(1) 地元就職を促進するための企業説明(体験)会

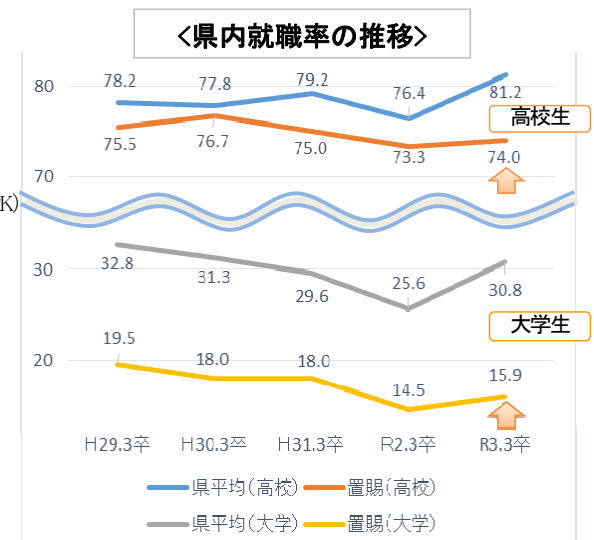
- ・管内3大学の学生、実業高校の生徒を対象に、地元企業等の業務内容や技術力等の魅力を直接知ってもらう取組み(バスツアー)
- ・企業が学校に出向き、仕事を模擬的に体験してもらうことを通して地域で働くことの魅力を高校生に知ってもらう取組み(WAKU WAKU WORK)

(2) 高校生と地域企業の交流事業

地元企業の情報に触れることのない進学校の生徒を対象に、地域の企業経営者等の講話を行い、地域企業の魅力や地域で働くことの意義を伝える

(3) 建設分野の若手技術者による仕事説明会

高校生に向けて、建設分野で働くことの魅力を伝えるため、建設業界で活躍している若手技術者が生の声で仕事内容や体験談等を説明する「仕事説明会」を開催



1 若者の地元定着②

(4) 若者力を発揮する地域づくり

- ・地域の若者と若手行政職員で構成する「おきたま元気創造ラボ」による地域の活性化
- ・「農」や「食」を通して若者の地域への理解を深め、愛着や誇りを醸成

■ 「おきたま元気創造ラボ」 (おきラボ)

○ 置賜の魅力の発見・発信

若者の視点で置賜の魅力を再発見・再認識するとともに、磨き上げ、SNS等で広く発信

○ 若者の交流拡大・地域活動の活性化

置賜管内の若者活動の連携の創出に向けて、若者団体等の交流会等を開催



アウトドア・お出かけスポットなど置賜の様々な魅力をSNSで発信



置賜の魅力溢れるロケーションを紹介する「OKITAMAベストロケーションマップ」(令和3年3月発刊)

■ 学生による食の魅力発信事業

～ okirakuキッチン ～

置賜地域の大学生が、生産者や料理人などの食に関わる人たちとの交流を通じて、地域の「農」と「食」を学び、その魅力を発信



■ 農業の魅力を知ろう！ Agri Teacher派遣事業

置賜地域で活躍する若手農業者を中学校に派遣し、農業の魅力ややりがい等を伝え、農業を職業として考える機会を創出



2 地域公共交通の充実・確保

《現状》

人口減少や少子化の進行により地域公共交通の利用者の減少が続く一方で、高齢者をはじめとした交通弱者は今後も増加が見込まれ、生活圏は広域化が進んでいる

《課題》

地域住民の足をしっかりと守るとともに、観光や関係人口等の拡大を推進する観点からも、地域公共交通の維持・確保、利便性の向上を図る必要がある

(1) フラワー長井線の支援

- 鉄道施設設備の老朽化の進行等も踏まえ、沿線2市2町と連携し、上下分離方式による財政支援を強化
- 沿線市町や関係機関・住民等と連携し、ポストコロナを見据えた観光利用の拡大に向けた取組みを推進するとともに、マイレール意識を高め地域全体で路線を支える気運を醸成

(2) 地域公共交通の利便性向上

- 管内市町・交通事業者等と連携し、バス路線や運行ダイヤの見直し、交通系ICカードの導入等により、利便性の向上を図る



フラワー長井線と水陸両用バスのコラボによる夏休み親子ツアーの開催(「やまがた夏旅」を活用 / R3.7月)



オンラインアワーの開催

沿線の高校生や企業が参画したフラワー長井線グッズの開発

スニーカー独自開発へ

フラワー長井線利用拡大協力が新企画

フラワー長井線の沿線市町や関係機関等と連携し、観光利用の拡大に向けた取組みを推進するとともに、マイレール意識を高め地域全体で路線を支える気運を醸成

沿線の高校生や企業が参画したフラワー長井線グッズの開発

沿線の高校生や企業が参画したフラワー長井線グッズの開発

高校生と沿線事業者連携

3 新型コロナの対応状況

① 5月下旬の感染者急増の際の総合支庁全体での体制構築

- ・所内の全保健師、事務職員も総動員し、休日も含めたローテーション体制を構築
- ・電話相談対応や検体搬送等の業務には、総合支庁他部、庁外保健師からも応援体制を構築
- ・5月25日～5月28日 山形市保健所、村山保健所、最上保健所、庄内保健所等から保健師の派遣を受けた

② 5月下旬の感染者急増の際の患者受入体制の構築

軽症者は自宅療養又は村山地域のホテル療養とし、入院が必要な中等症の患者は新型コロナウイルス感染症受入調整本部を通して調整のうえ、管外病院の協力を得ることで管内の感染症指定医療機関の病床のオーバーフローを回避

③ 置賜総合支庁を会場とする職域接種

9月上旬から置賜総合支庁、米沢栄養大・女子短大との共同で実施予定（接種予定者数1,100人）

④ 新型コロナ対策認証制度説明会

6月下旬から管内市町を会場に説明会を開催し、認証施設に対する補助金などのメリットを周知（4市町、5箇所）

⑤ 新型コロナ対策認証事業等

【申請件数】 県：2,489件
置賜：403件
【認証件数】 県：1,332件
置賜：183件



(R3. 8. 19現在)

○ 新・生活様式対応支援事業費補助金

(新型コロナ対策認証対応型)

【交付決定件数】 県：459件
置賜：57件 (R3. 7. 30現在)

(施設からの主な意見)

- ・目に見えるかたちで、新型コロナ対策を行っているというお墨付きをもらえるのは、施設側からも利用客側からも安心感がある。
 - ・認証制度が補助金とセットになっている点がありがたい。
 - ・補助金を活用して購入した設備について、利用客からの反応が良かった。
- ⑥ 感染拡大防止特別集中期間における感染拡大防止対策の強化（24日間）

3 新型コロナ収束後を見据えた広域観光の推進

○ 近年の観光トレンド

「有名観光地・温泉等を巡る団体旅行」から
「個人・家族・友人等の小グループによるテーマ型・体験型・滞在型」が主流に

(山形県観光者数調査)

置賜地域観光者数	平成22年度(2019年)	令和元年度(2019年)	増減率
名所・旧跡	356.6万人	261.7万人	26.6%減
温泉観光地	116.3万人	89.8万人	22.8%減
道の駅	89.4万人	359.9万人	302.6%増
その他	150.9万人	207.3万人	37.4%増

※「道の駅米沢」・「道の駅川のみなと長井」の開業等、道の駅の観光者数が大幅に増加しているほか、産直施設や「かわにし森のマルシェ」・「旧長井小学校第一校舎」等の観光交流施設を含む「その他」が増加している。



白川湖SUP体験

○ 新型コロナによる変化

「少人数」「マイカー」「自然体験」「マイクロツーリズム(近場)」

⇒ 新型コロナにより、こうした流れは一層進む

○ アフターコロナを見据えて

・名所・旧跡、置賜地域を彩る「花々」や米沢牛・地酒・ワイン等の「美食・美酒」に加え、地域ならではの観光資源を生かした多様な誘客企画の検討や旅行商品造成等を推進

テーマ型：伊達四十八館の城館跡、出羽百観音等

体験型：カヌー、甲冑着付け、紅花染め、深山和紙紙漉き体験等

滞在型：農家民宿での収穫体験・郷土料理教室などの田舎体験等

磨き上げ！

・ コロナ収束を見据えたインバウンド受入態勢整備

外国人旅行者が使用するウェブサイト・SNSへの対応、外国人旅行者対応研修等



甲冑・米沢織着付け体験

4 最近の話題①

□ 地域の新たな観光コンテンツ

各市町、観光協会、DMOのやまがたアルカディア観光局、観光事業者等が連携して、地域資源を生かした新たな観光コンテンツづくりに取り組んでいる。

【主な観光コンテンツ】



白川湖でのカヌー・SUP体験



熊野大社での一日巫女体験



長井ダム(ながい百秋湖)での三淵渓谷ボートツーリング(上)、水陸両用バス(右)



伊達四十八館を巡るウォーキングイベント

□ 川西ダリア園オープン(8/1)

広さ4ヘクタールの園内に650種、10万本のダリアが咲き競う。11月3日まで、色鮮やかに大輪の花を咲かせる様々なダリアを楽しむことができる。

置賜総合支庁では、川西ダリア園で育成された品種の中から、切り花出荷に適した品種の調査を行っている。

また、切り花を長く楽しんでいただくために、長期出荷可能なハウスでの栽培試験も併せて行っている。



□ おきたまワイン・ワイナリーの活用

今年6月、清酒に続き「山形」ワインもGI登録された。

置賜地域には、県内17のワイナリーのうち約半分にあたる8つのワイナリーがあり、地元産のぶどうを原料に高品質なワイン造りが行われている。

県では、新たな2つのワイナリーの醸造施設や設備整備を支援(H28~30年度)した。

置賜総合支庁では、日本酒も含め、米沢牛、温泉、雪等の資源と組み合わせた観光誘客に取り組んでいる。



4 最近の話題②

□ 米沢牛の生産基盤強化

(事業目的)

置賜生まれ置賜育ちの米沢牛の生産基盤強化を図るため、転作田等を利用した繁殖雌牛の簡易放牧の拡大を推進

(事業概要)

- ・放牧時に牛に付着してストレスとなる吸血昆虫を忌避するため、従来のアブ捕獲機の設置と併せ、牛をゼブラ柄に塗装する技術をモデル的に実施
- ・畜産農家の協力のもと、繁殖雌牛3頭にゼブラ柄塗装を行い、吸血昆虫の忌避行動について、塗装しない3頭との比較調査を行う(8月から10月下旬まで月2回程度の子予定)



ゼブラ柄に塗装した牛(愛知県)



アブ捕獲機の設置

□ 吉野川河川改修事業



湯河原橋下流(整備前)



湯河原橋下流(整備後)

- ・平成25年、26年の豪雨により戦後最大の洪水氾濫
- ・花台橋、湯河原橋、花見橋、吉野橋は供用済み
- ・今年度は吉野橋より下流工区の護岸や築堤等の整備を実施

□ 米沢市立病院、三友堂病院、三友堂リハビリテーションセンターの再編統合

米沢市の救急医療体制維持が非常に厳しい状況であること、両病院の建物の老朽化が進んでいること、両病院の連携による医療機能の見直しが必要であること等の理由から、現在、両病院の建替工事が進められている。全国初の官民連携病院として、令和5年



米沢市立病院

三友堂病院

11月頃開院予定。

また、両病院による地域医療連携推進法人の設立を目指している。